



宮田 博文

代表取締役

(前編の続き)

子どもミュージアムプロジェクトが始まり、社員は自分の子どもが書いた絵を背負って仕事に出かけることになった。すると、途端に皆の運動に対する意識が目に見えて変わった。運転そのものが優しくなり、常にトラックを綺麗に磨くようになったのだ。

「社員一人ひとりが、トラックも荷物も人も、そして自分の人生もより大切にしようになりました。私はそれがとても嬉しいんです」。

365日命がけて運転し、きつい、しんどい、危ないという思いを心のどこかに抱えていた皆の気持ちも、1枚のラッピングでがらりと変わったのだ。

優しさを乗せて

今、物流業界では時間通りに荷物を届けることが当たり前になっていく。配送が遅れて怒られることはあっても、感謝される機会はほとんどない。物流は重要なインフラだが、その大切さが理解されないことが多い。

だ。経済価値と社会価値、二つの共有価値の創造。こどもミュージアムプロジェクトの、世界への推進もその一つだ。自分たちの命、時間を何のために使うのか、悩んだ時期もあった。だからこそ導き出した答えが、会社の発展だけではなく、世界中の人が平和で幸せになれるような取り組みを通して行うことだった。それが、社会価値にもなっていくのだ。

「運送業は確かに地味だし、危険も伴う。けれど、どんな思いを持って行うかで、社員の意識は確実に変わるのです」。

そして社員とその家族の幸せを願えば願うほど、より良い社会にしていきたいという思いは強くなる。だから宮田は、皆が幸せで安心して暮らせるような未来を作っていこうとしているのだ。

大きな愛で希望を発信し続ける宮田が率いる宮田運輸は、これからも社会と人に、真に必要とされる企業として発展していくことだろう。

いのも事実だ。しかし、こどもミュージアムプロジェクトは、そこに新たな意義を与えた。

「社員は、大切なメッセージや思いを運んでいるという使命感や誇りを持って働くようになったのです」。

以前、道路で偶然トラックを見かけた人から「渋滞でイライラしていたが、ラッピングトラックを見て、心が穏やかになった」という手紙をもらったことがある。トラックは怖いというイメージから、人を笑顔にし、優しい気持ちを発露させるものに変えたのだ。それこそが、宮田の大きな願いだった。

思いを世界へ

宮田は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの年までに、全国を走っている150万台のトラックのうち75万台をこどもミュージアムトラックにする目標を持っている。この取り組みが海外から来た人たちの目に留まり、日本だけでなく世界中に輪を広げていきたいと考えているのだ。

子どもの絵とメッセージは、世代



も国境も超えて見た人の心に響いていく。人は本来、誰もが優しい心を持っていてはるはず。しかし、時としてそれを忘れてしまう。それが、子どもの絵やメッセージに触れた瞬間に、本来の心を思い出させてくれるのではないだろうか。自分たちの活動が、人と人が繋がり合い、調和のとれた世界へと人類を導いてくれるきっかけになればいい。宮田は、そんな思いを抱いている。

「政治だけでなく、中小企業の運送会社でもそういう思いを発信していくことができると思います。これが広がっていくことで、優しさに溢れた世界を作っていくことができると思っています」。

助け合い、繋がり合う

「人の心を大切にすること、経営者が社員を信じることを宮田は常に心に留めている。人が持っている豊かな心を信じ、それを思う存分発揮しながら働ける環境を作りたい。苦しいことも悲しいことも本音で語

り、困っている人がいれば皆で助け合う。全社員がそんな関係を育んでいけたらいいと、宮田は考えている。だから、未来会議を行うのだ。皆のやりたい気持ちを引き出して、人々どう動かすかではなく、皆が率先して良い方向へと向かって行く。そんな会社を目指している。

45周年の時に立てた、25年後の70期、売上高300億、経常利益37億、社員2000人という目標。それは、数字だけ達成すれば良いものではない。仕事を通して優しい心を世界に広げ、皆が応援してくれた上で達成しなければならぬ。会社の発展が、社員はもちろん日本中の、いや世界中の人の幸せに繋がっていく。それこそが、宮田の描く理想なのだ。

守りたい未来があるから

2017年4月、宮田は新たな部署として国際CSV事業部を設立した。事業そのものが社会の課題を解決する力を持つことが、企業が発展していくために必要だと考えたから

企業情報

- ◆設立年：1967年4月
- ◆年商：37億円
(29年度 H29.4月~H30.3月 見込)
- ◆従業員数：280人

※ 2017年12月時点

全社スローガン：できるやんか!!

今回の特集では、全社と各事業所のスローガンを紹介します。
今期の軸となる大切な言葉を、しっかりと胸に刻みこみましょう！



小牧事業所
所長
尾関 孝徳さん



スローガン：創造と挑戦

今季、小牧事業所では、倉庫移転など新しい取り組みが、次々と始まろうとしています。これを機にいろいろな事を全員で挑戦し作り上げていきたいと思いこのスローガンにしました。全員がそれぞれの役割を明確にして本気で取り組める環境を作り、活力があり、優しい気持ちがあふれる事業所にしていきます。



枚方事業所
係長
下村 宣文さん



スローガン：つなぐ

仲間とのつながり、お客様とのつながりを大切につないでいく。仲間とつながることで、助け合い、一人ではできないことを成し遂げる。お客様とつながることで、変化にいち早く気づき、チャンスをものにする。自分の仕事を、次の人につなげる意識を持つことで、仕事がスムーズになる。つながりの第一歩は、コミュニケーションです。つながりを大切にすることを意識して仕事を進めていきます。



京都南事業所
所長
大川 真史さん



スローガン：攻めの姿勢 冷静な判断 ガンガン行くで!

私たちの事業所は、宮田運輸の中で、一番多くの車輛を動かしていますし、倉庫についても、新設倉庫ということで、まだまだこれからです。運転士の皆さんの労務環境、売り上げのこと、何かと気を配ることは多いのですが、気を配りすぎて、小さくまとまることなく、冷静かつ大胆に、愛のある配車を!



半田事業所
所長
内田 望さん



スローガン：one for all, all for one

木鶏会などを通して、事業所の団結力をさらに向上させ、コミュニケーションを通して、全体のことを考えて個々が動くとともに、困っている仲間を全力で助ける。困ったときは大騒ぎ、困った人は寄ってたかって助ける、という宮田運輸の社風を実践していきたいと思っています。



西宮事業所
所長
下泉 慎一さん



スローガン：全力

自分自身、所長という大役を全うするためには、全力で事に当たる必要があります。また、西宮事業所の皆は潜在能力があるのに、まだまだ、全ての力を出し切れて無いと感じるので、みんなで力を発揮できる環境を作り、仕事に対する「喜び」や「充実感」、「満足感」を感じる職場にしたいです。そのためのキーワードが全力です。今期の西宮事業所は全力でやります。



米共配事業所
所長
秋元 瑞穂さん



スローガン：本物

米共配事業所が取り組んでいる業務は、他の会社に取り組んでいない、宮田運輸独自の業務です。この業務を、安定した収益をあげられる構造にして、誰もまねのできない、宮田運輸のカタチとして、他の地域でも広げていく。他にはない、本物を創りあげていきます。



高槻事業所
所長
工藤 栄治さん



スローガン：改革とチャレンジ

高槻事業所では、業務のいくつかは安定してきています。そんな中で、事業所のメンバーから出てきた一言を52期の事業所スローガンに採用させていただきました。新しい仲間も増えてきており、彼らの力を刺激にして、挑戦する精神を忘れずに高い目標を掲げて、GIANT KILLINGを成し遂げたいと思います。



福岡事業所
アドバイザー
佐々木 住忠さん



スローガン：貫徹

全社スローガン「できるやんか!」を受けて、事業所として掲げた目標を「絵に書いた餅」にしないよう、なになんでも走り遂げるとの気概を込めて「貫徹」としました。前期10月に発足したばかりの小規模事業所ですが、まずは「活気とやる気溢れる」事業所風土を構築し、それが日々の行動に現れる職場を造り上げると同時に、若手が我社で働くことに夢と希望を大きく抱き、やり遂げることからの達成感を得、自信を持つことで会社貢献する結果に繋がる「人財」を育成する。また52期月別目標数字達成に徹底的にこだわり続け、通期目標達成に向け全力傾注します。「雨垂れ石を穿つ」の諺通り、地道な努力の積み重ねは必ず結果をもたらすことを信じて取組継続することと、喫緊の課題を一つひとつ解決し具現化することの両局面からトライし続けます。



三木事業所
所長
出井 辰弥さん



スローガン：更に 前進

三木事業所は、新たなメンバーを迎え入れ、第二センターを立ち上げる等の取り組みを進めてきました。この歩みを「更に」進めるべく、前のめりの姿勢で、業務に取り組んでいきたいと思っています。



岡山事業所
ブロック長
福本 浩之さん



スローガン：変化をチャンスに

岡山事業所は今期から、体制を大きく変えてのスタートとなります。変化することはとても怖いことなのですが、怖れてばかりいては、これを転機、好機にできません。臆することなく、変化に挑み、自分から変えていくほどの気概を持って、チャンスをものにしていきます。



埼玉事業所
係長
川和 宏彰さん



スローガン：ゴール 夢が人生を創る

今期、埼玉事業所のスローガンには元日本ハム選手の大谷選手の言葉をお借りしました。私は、今後の社会においても埼玉事業所においても「個」の力というのが非常に重要だと感じております。「個」の力を最大限引き出すためには「夢(ゴール)」が重要になってきます。何を見ているかによって進む方向は全く逆の方向に向かってしまうこともあります。利益ももちろん大切ですが、目先の利益よりも今自分が何処に向かって仕事をしているのか、どうしていきたいのかを常にゴールと現実を見返しながら一歩一歩着実に進めていきたいと思っています。また、宮田運輸で働くことが自分のゴール達成の手段になり、その人の持つエネルギーを最大限発揮できる場にしたいと思っています。